

P204 の (9) の証明はその下に記載されている。これが定理 6 の証明と似たものとなっている。

P204 から 205 の内容を確認してみる。

これらは P108 の証明と同様に対応できる。

まず、(10) に関しては、P.204 の最後のパラグラフから記載があるが、P108 の (10) の証明と同様になっていることが確認できる。

P.205 の $(W_1 + W_2)^\perp = W_1^\perp \cap W_2^\perp$ を考える。

$W_1 + W_2 \supset W_1$ なので、 $(W_1 + W_2)^\perp \subset W_1^\perp$ となる。これは任意の $a \in (W_1 + W_2)^\perp \subset V^*$ を考えると、すべての $b \in W_1$ に対して、 $\langle a, b \rangle = 0$ になる。よって、 $a \in W_1^\perp$ となり、上記が成り立つ。

同様に $(W_1 + W_2)^\perp \subset W_2^\perp$ となり、 $(W_1 + W_2)^\perp \subset W_1^\perp \cap W_2^\perp$

逆に、任意の $y \in W_1^\perp \cap W_2^\perp \in V^*$ とすれば、 $x = x_1 + x_2 \in W_1 + W_2 \in V, x_1 \in W_1 \subset V, x_2 \in W_2 \subset V$ に対し、 $\langle x, y \rangle = \langle x_1, y \rangle + \langle x_2, y \rangle = 0$ 。よって、 $y \in (W_1 + W_2)^\perp$ 。すなわち、 $(W_1 + W_2)^\perp \supset W_1^\perp \cap W_2^\perp$
故に $(W_1 + W_2)^\perp = W_1^\perp \cap W_2^\perp$

P.205 の $(W_1 \cap W_2)^\perp = W_1^\perp + W_2^\perp$ を考える。

これは空間が異なるので、P.108 と同様の検討はできない。

$W_1 \cap W_2 \subset W_1$ なので、 $(W_1 \cap W_2)^\perp \supset W_1^\perp$ となる。これは任意の $a \in W_1^\perp \subset V^*$ を考えると、すべての $b \in W_1 \cap W_2$ に対して、 $\langle a, b \rangle = 0$ になる。よって、 $a \in (W_1 \cap W_2)^\perp$ となり、上記が成り立つ。

同様に $(W_1 \cap W_2)^\perp \supset W_2^\perp$ となり、 $(W_1 \cap W_2)^\perp \supset W_1^\perp + W_2^\perp$

逆に、任意の $y \in W_1 \cap W_2 \in V$ とすれば、 $x = x_1 + x_2 \in W_1^\perp + W_2^\perp \in V^*, x_1 \in W_1^\perp \in V^*, x_2 \in W_2^\perp \in V^*$ に対し、 $\langle x, y \rangle = \langle x_1, y \rangle + \langle x_2, y \rangle = 0$ 。(8) の付近の議論と同様に $W_1 \cap W_2, (W_1^\perp + W_2^\perp)^\perp$ の直交空間を取れば、 $(W_1 \cap W_2)^\perp \subset (W_1^\perp + W_2^\perp)^\perp$ となる。(10) を考慮すると、 $(W_1 \cap W_2)^\perp \subset W_1^\perp + W_2^\perp$ となる。

故に、 $(W_1 \cap W_2)^\perp = W_1^\perp + W_2^\perp$ となる。